

月刊

# 地域保健



●特集

## 母子保健における喫煙対策

●フロントランナー

角田幸代さん（横須賀市 子ども育成部こども青少年支援課子育て支援係長）

●ピープル

松本和子さん（NPO法人女性ネットSaya Saya代表理事）



# 角田 幸代

さん

● こども育成部こども青少年支援課子育て支援係



高校時代の保健室から始まった「志<sup>(シラガシ)</sup>」を胸に

顔の見える関係を築く訪問から大きな新事業の立ち上げへ

神奈川県

神奈川県の南東部に位置する横須賀

市は、東京湾と相模湾に面した三浦半島にあり、漁業や農業も盛んだ。山が多いので、海に面した限られた平地に市街地が集まっている。また、自然や海の幸を満喫できるスポットも多く、観光にも力を入れている。スカジャンや「よこすか海軍カレー」など、オリジナルのファッショングや食も人気だ。2013（平成25）年の3月13日には、地場産物総合販売所「よこすかポートマーケット」がオープンし、にぎわいを見せていく。

京急本線横須賀中央駅からほど近い「はぐくみかん」に向かうと、足を進めるほどに潮の香りに包まれた。「はぐくみかん」は子どもに関する総合的、一体的な取り組みを進める拠点として、2008（平成20）年4月にオープンした施設である。子育て支援の総合相談窓口、療育相談センター、児童相談所など、子どもに関する総合支援

体制の中核機能を担っている。

今回お話をうかがったのは、「はぐくみかん」にある、横須賀市のこども育成部こども青少年支援課子育て支援係に所属する角田幸代さん。ショートカットではつらつとした雰囲気の角田さんは、子育て支援拠点事業や、養育支援訪問事業などの子育て支援事業やDV相談、24時間体制の子育て電話相談、要保護児童対策地域協議会などを担当する部署で係長として力を尽くしている。

## 養護教諭に憧れて 進路を決めた高校時代

角田さんは三陸の出身で、チリ地震津波の直後に岩手県宮古市で生まれ、気仙沼市で育った。船の様子を見に行つたまま帰らなかつた曾祖父の話を聞かされ、地元を離れる高校生までは、津波警報が出されるたびに家族と一緒に必ず高台に避難していたという。実



P18 【概論】母子保健における喫煙対策

◎齊藤麗子（十文字学園女子大学）

P28 アンケート調査に基づいた重点施策を展開

—山口県宇部市

◎古林里美（宇部市健康推進課）

P36 タバコ対策を地域保健活動の基盤として実践

—大阪府大東市

◎細川律子・成富雅子・永瀬鏡津子ほか（大東市保健医療部地域保健課）

P44 子育て支援から中学校防煙教育まで「吸わない大人づくり」

—東京都北区

◎取材／編集部

◎お話を伺った人／佐藤美穂子さん（北区健康福祉部健康いきがい課）

特集

# 母子保健における 喫煙対策

2004年のWHO「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」受諾に始まり、わが国では公共の場や職場における受動喫煙対策が進んでいる。一方、子どもが煙の害に暴露される家庭においては、喫煙対策は両親の良識にゆだねられており、地域での啓蒙活動がまだまだ必要である。母子保健の領域を中心に喫煙対策の今をみる。





ひよこ★ホップ★ステップ★

## 地域住民の健康のために 力を尽くしたい

そして、何番目かに思い出してもらえる存在に――

竹川彩加さん

●山梨県中北保健福祉事務所  
峡北支所 地域保健課



文=編集部 写真=C.Kent

### みんなに助けてもらつた 3年間

竹川彩加さんとお会いしたのは、透きとおるような青空が眩しい春の日。

風は少し肌寒かつたけれど、竹川さんのほんわか笑顔が、一気に私たちの気分を温かくしてくれました。

竹川さんは入職して今年で3年になります。大学を卒業してから大学院へ進んだので、ちょっとお姉さんのひょこさんです。

山梨県中北保健福祉事務所峡北支所は、山梨県の韮崎市、南アルプス市、北杜市の保健所業務と福祉事務所の機

能を併せ持つたところ。竹川さんは「地域保健課」という、特に感染症を扱う部署に所属しています。入職1年目に

は先輩保健師さんがいましたが、2年目で異動してしまったため、今は課長

のほかは竹川さんだけになってしましました。最初は心細くて仕方がなかつ

たとか。

「まだ先輩のアドバイスもほしい、仕事を見ながら覚えたいという時期でしたし、事務量も想像以上に多いので、

最初はすごくとまどいました。でも、課長や、隣の課の先輩保健師さん、他の保健所で同じ業務をしている保健師さんがアドバイスをくれて、手助けしてくれたので、何とかやってこられました。それから、事務所内には事務職、薬剤師、精神保健相談員、臨床検査技師など、さまざまな専門家がいます。だから分からることは何でも聞いています」

相談したり、情報交換をしているといいます。

### まず話を聞くことから 始める

竹川さんの中心的な業務は、結核の把握と管理です。予防のための啓蒙や、患者さんの服薬支援、接触者のフォローなどを行っています。全国的に見ると山梨県の結核患者さんは少ないほうですが、それでも毎年100人くらい、管内では20人くらいの患者さんが罹患しています。入院している病院に行つて情報収集したり、退院した患者さんに対してはご自宅に訪問して直接服薬指導をするなど、病状の確認をしているそうです。

患者さんのお宅にうかがうとき、竹川さんは心がけていることがあります。そこで仲間と出会うことができ、

助けを待っているだけではなく、自分からどんどん質問していくことで、大切なのですね。山梨県では新任保健師の研修会や事例検討会を行うなど、現任教育に力を入れているそうですね。そこで仲間と出会うことができ、

「結核患者さんへの対応は、法律に